

# イシカワシラウオ (本じらす)



## 生態的特徴等

【生態】青森県～和歌山県の太平洋岸に分布し、沿岸の岩礁域や河口付近に生息する。寿命は1歳で、成熟、産卵後死亡する。産卵期となる2～5月には、雌は雄より大きくなり、雄は臀鰭鱗が吸盤状となる。卵は粘着性で、岩礁域の砂礫底での採集記録がある。ふ化直後の仔魚は全長4.4mmで、最大で7cm程度に成長する(図1)。

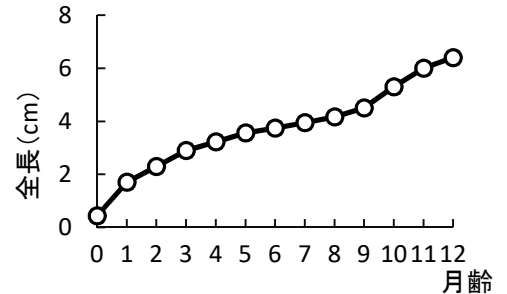


図1 イシカワシラウオの成長

【漁法と盛漁期】船曳網に混獲される。盛漁期は2～4月で、主に繁殖のため河口付近に集まる成熟個体が漁獲される。茨城県では、川尻、久慈、大洗地区の水揚げが多い。

【利用】生食用、煮干し原料として高値で取り引きされる。霞ヶ浦北浦で漁獲されるのはシラウオで、別種である。

## 近年の資源は中位・増加傾向

(漁獲量) 過去には年間30トン前後の漁獲があったが、近年は10～20トンで推移している(図2)。

(水準と動向) 寿命が1歳と短く、また環境変化の影響を受けやすい沿岸域に生息していることから、資源変動の大きい魚種と考えられる。資源水準は過去のCPUE(kg/隻・日)の推移(図3)から、H29年の水準は「中位」、イシカワシラウオについては過去3年の傾向から、動向は「増加」とした。

水準



動向

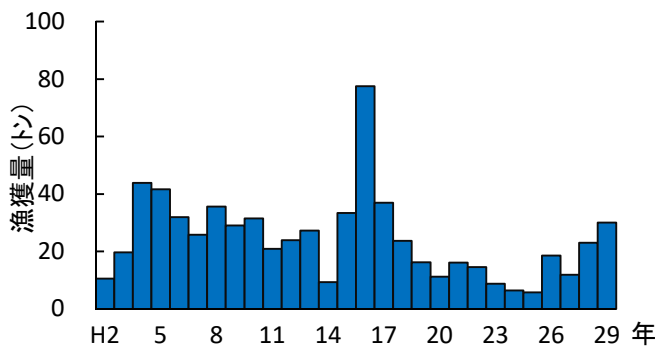


図2 イシカワシラウオの漁獲量  
(水試システム・属地)

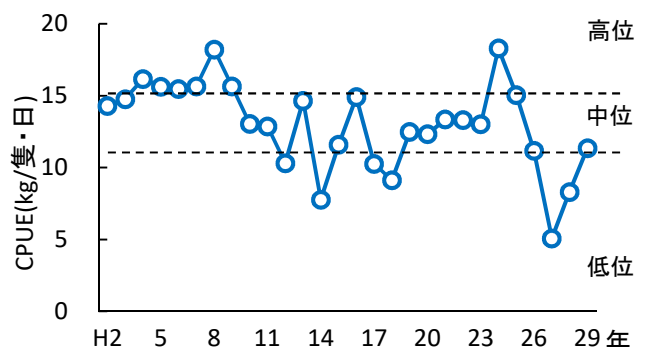


図3 イシカワシラウオのCPUE(船曳網)  
(水試システム)

## 【全国の漁獲動向】

・茨城県以外では、福島県、千葉県の沿岸域で漁獲されている。